

地域と協同の 169号 研究センターNEWS

2018年9月25日発行

【巻頭言】

人口減少・少子超高齢の未来社会にどう備えるか

－地域の持続可能性と協同組合の役割－ 公開セミナーを開催して

向井 忍（地域と協同の研究センター専務理事）

“持続可能な開発目標(SDGs)”への取り組みが進んでいますが、「持続可能性」を考える際に確実に影響する要因は人口動態です。人口減少は始まっており、2010～15年に岐阜県では42市町村中36市町村で、三重県は29市町中22市町で、愛知県は54市町村中21市町村で減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の出産中位・死亡中位推計(平成29年推計)では、2040年に日本の人口は、現在1億2649万人が1億1092万人となり、その後も長期に人口減少が続きます。東海三県の市区町村（名古屋市を16区で集計）を人口予測で区分すると（表）、人口減少が進むエリアほど生協加入率が高いことがわかりました。名古屋圏への人口集中が同時に進むため、地域ごとの状況を積み上げないと共通認識になりません。

総務省「自治体戦略2040構想研究会」報告書では自治体行政の課題が3つの柱で紹介されています。「1. 若者を吸収しながら老いていく東京圏と支え手を失う地方圏 2. 標準的な人生設計の消滅による雇用・教育の機能不全 3. スポンジ化する都市と朽ち果てるインフラ」です。都市のスポンジ化で、空き地、空き家が増え、都市機能が失われるとし、人口30万人以上の都市に自治体や都市の機能を集中し、人口集中圏に生活機能を集中する発想が出されていますが、30万人以上とは各県に2つか3つになってしまいます。公と共と私の役割の見直し、公と民間で人財を活用する、自治体を越えた横断的なプラットフォームが必要では

等のメッセージも出されています。報告書で取り上げられている分野は、生協にも関わります。人口減少社会に向けて、住民組織や行政とも連携して地

東海3県の人口増減区分別、世帯数と生協組合員数

2040年増減予測	自治体数	世帯数	構成比	組合員数	構成比	加入率
▲30%～▲70%	31	224,725	4.8%	63,188	7.0%	28.1%
▲10%～▲30%	53	1,724,913	37.0%	422,425	46.7%	24.5%
±0%～▲10%	34	1,768,367	38.0%	261,290	28.9%	14.8%
増加	22	939,507	20.2%	157,280	17.4%	16.7%
合計	140	4,657,512	100.0%	904,183	100.0%	19.4%
		2018.3.01		2018.3.20		

域の協同関係を豊かにする方向を、事業連帯の役割もふくめて考えていく必要があります。【※2頁に続く】

CONTENTS

- 【巻頭言】人口減少・少子超高齢の未来社会にどう備えるか－地域の持続可能性と協同組合の役割－ 公開セミナーを開催して
- 【岐阜地域懇談会報告】プチフォーラムIN岐阜
- 【研究フォーラム地域福祉報告】名古屋市南区でのフィールドワーク
- ▶情報クリップ
- ▶企画案内「第4回貧困と子どもの健康研究会」
- ▶「研究センター会員お誘い強化月間」のおしらせ

- 1
- 3
- 4
- 5
- 8

地域と協同の研究センター 9月の活動

- 9/1土 第3回共同購入マイスターコース
- 9/3月 「市民の講座」運営委員会
- 9/7金 研究会会義
- 9/8土 東海交流フォーラム第1回実行委員会、理事懇談会・公開セミナー
- 9/12水 協同組合間協同相談会、三河地域懇談会世話人会
- 9/13木 三重地域懇談会世話人会「みえ医療福祉生協視察」
- 9/19水 NEWS編集委員会
- 9/21金 第4回「協同の未来塾」①：コープこうべ協同学苑
- 9/22土 同二日目
- 9/25火 常任理事会
- 9/26水 環境フォーラム「森・北岡先生との懇談」
- 9/28金 第1回組合員理事ゼミナール理事

【1頁より】
コメント**安藤信雄氏（中部学院大学経営学部教授）**

総務省は“これからの地方自治は与えられるものではなく、自分たちで考えるもの”と言いたいのかと思います。2040年構想の背景は、今までの社会の経済効率性をどうやって維持しながら、人口減少を乗り越えていくかにあると感じます。一点目として経済効率性にも非営利企業と営利企業の違いが現れます。営利企業は利益を最大化しますが、非営利企業はサービス・満足最大化を求め、赤字にならないギリギリのところまで生産を拡大します。二点目は、非営利企業も営利企業と同じですがものを通じたサービスから情報そのものをサービスとして提供することにシフトしていきます。協同組合の存在理由は情報化ではないか

と思います。総務省が言っていないことのひとつは標準化です。協同組合も標準化しないと経済効率性は維持できません。現時点では機械化とAIです。もう一つは多様性です。協同組合は標準化しきれないところへどうサービスを拡大するかだと思います。外国人労働者を含む多様性を考えると、協同組合は日本人のコミュニティの中で形成されてきましたが、新しいコミュニティがなければ対応できない問題が起きるのではないのでしょうか。言葉や習慣の違いとか多様性が出てきた場合どうするか、具体的に問われてくると思います。（あんど う のぶお）

**講演 2030年にむけた生協しまねのビジョンと実践****大木隆之氏（生協しまね 専務理事）**

【島根県と生協しまねの概要】島根県の人口は68万9千人です。1年間で毎年5,000人くらい減っています。高齢者率はずっと1位でしたが、秋田と高知にその座を譲って3位です。島根の将来の人口推計では、2040年に県の人口は24%くらい減るという予測です。そして地域間で大きな差異が出てきます。生協しまねは1984年11月に創立され、エリアは島根県全域です。2014年の10月から隠岐の島にも配達しています。隠岐の島の世帯加入率はまだ6～7%です。全県では、23.6%です。

【どんな生協になっていたいかー生協しまねのビジョンについて】2001年に「想いをかたちに～共に創る豊かなくらし～」と、初めてビジョンをつくりました。2001年ビジョンで一番大きなことは、それまでの「生協から」の運営から、一人一人の組合員やくらしからの運営について転換を図っていくということでした。2017年度のビジョンでは、これまでのビジョンも踏まえながら、急速な少子高齢化、人口減少が進み、コミュニティの衰退、人々の孤立化、その中で食の持つ意味、食を巡る状況の論議がクローズアップされ、そういうところを意識して、ビジョンを見直しました。「共に生き、共に創る豊かなくらし」です。

【地域とくらしのなかでの実践、問題意識（2つの事例を中心に）】**（1）「おたがいさま」の活動**

2002年から「おたがいさま」の活動を島根で始めました。今、6つの「おたがいさま」が県内にあり、隠岐の島にも組合員が地域の人とつくった「おたがいさま」があり、合わせると島根に7つあります。「おたがいさま」の利用者は組合員である必要はありません。「おたがいさま」の活動で、手助けしてほしいことを利用者自身が決めます。基本的に、利用基準・要件はありません。誰でも利用できます。利用者も応援者になり、応援者も利用者になります。もう一つ大事な運

営のポイントは、関わる人たちが自分達で決め、運営していくということです。運営委員会を中心に、一人ひとりの思い、願いに共感すると同時に、そこをベースにみんなでつくる、そのための場づくりを丁寧に行っています。

（2）「地域つながりセンター」「あったか地域づくり協議会」を中心に

「おたがいさま」の活動が、地域の中で広がっていく中で、「おたがいさま」を生協のものから地域のものにしたいと、JA、医療生協、と一緒に任意団体として2014年に「地域つながりセンター」を設立しました。目的は、地域の人自分らしく生きるのを大事にしながら、地域での医療や介護、くらしをつなぎ、安心して住み続けられる地域づくりを一緒に取り組むこと。また「おたがいさま」の活動、そこで大事にしている価値を広げていくこと、この2つを目標に設立しました。もともと「あったか地域づくり協議会」という場があり、そこには社会福祉協議会も参加しています。「地域つながりセンター」設立の後も活動しています。「つながりセンター」のテーマでもありますが、松江保険生協が、「低額・無料診療」制度を始められましたので、その支援にも関わります。

【生協の事業の実践、問題意識】生協しまねは店舗がなく宅配事業と夕食宅配の2つです。宅配事業については、地域によって人口の減り方、規模は違います。地域の抱える、組合員の抱える状況も違います。近いところで状況を見て事業を組み立てる力を持たないのだめだと思います。生き物として、運営できる集団として、そこへ向けて、本部集中型ではなく、全体性を保ちながらですが、運営を切り替えたいと思っています。また、加入者の中で「班」と「なかよし個配」の割合が6割を占めることを目標にしています。

（おおき たかし）

（むかい し のぶ）



「プチフォーラム IN 岐阜」報告

プチフォーラムは…

第 14 回東海交流フォーラム（2018 年 2 月）で「若者の出番のある地域づくりを～子ども・若者支援の現場から見えているもの～」を報告いただいた「中川健史（なかがわ・たけし）さん」のお話を、当日会場に行けなかった岐阜県のみなさんにぜひ聴いて頂きたいと、7 月 21 日（土）、生活協同組合コープぎふ本部（岐阜県各務原市）にて開催しました。

中川健史さん：NPO 法人 仕事工房ポポロ（理事長） 一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク（共同代表）
 一般社団法人よりそいネットワークぎふ（代表理事） 子ども・若者支援ネットワーク・ぎふ（共同呼びかけ人）
 NPO 法人ぎふ NPO センター（副理事長）

今、岐阜（県・身の回り）でおこっていること

「見ようとしなければ見えないこと、聞こうとしなければ聞こえないこと」というテーマで、生きづらさを抱えている人や、問題行動をおこす人たちの支援活動の中から見えてくることについてお話をさせていただきました。

ひきこもりの当事者は本当に困っていること、困っていることについてきちんと聞いてもらったことがないこと、「人生の深い問い」にきちんと応えない大人、世間の物差し、常識の強要、説教から始まる大人との会話。ただただ受け止めてくれる大人の存在が求められています。

そんな彼らにとって必要なものが「居場所」。人は誰でも様々な居場所を使い分けながらくらしています。家庭、職場、そして地域。例えば高校生がコンビニエンスの前でたむろしているのも「ひとつの居場所」。そういう居場所が全部

なくなった状態でくらしているのが、ひきこもりの人たち。

社会生活に参加できない、人間関係を築けていないひきこもりの人たちには、手紙も届きません。そんな彼・彼女ら 60 人に絵の得意なひきこもりの人が描いた絵手紙を送りつづけた結果、昨年は半数の人から年賀状が届いたそうです。ひきこもりの人たちにとって、ポストに年賀状を投函することすら、とても大変なこと。一枚のはがきも彼らには「居場所」になります。居場所は物理的空間を意味するのではなく「人と人との関係性を感じられるところ」です。

さまざまな居場所を中川さんは提供しておられます。その居場所で、中川さんが、伝えたいことのうち、特に印象的だったのが、「何でもひとりであまうできては、いけない」です。

何でもひとりであまうできては、いけない

人間はそこにいるだけで価値がある、誰にでも価値がある、できること、できないこともあるから人間、そのために人間は社会をつくる、「自立」とはできないこと、困ったことを誰かに「助けて！！」と言える力をつけること。そして今、「助けてもらわないとやっていけない社会」になっている。

将来のために、今頑張って勉強したり、歯を食いしばって働いたり、苦しいのを我慢する、

それはちょっとおかしいのではないのか？今日が楽しいから、明日も楽しい、その積み重ねが人生、今日を我慢することは年をとっても我慢して生きることになる、楽しむというのは、楽しませてもらうというのではなく、「主体的に楽しむ」ということ。義務感で、活動をするのではなく、楽しみながら、無理してやると「やってあげている」になってしまいます。

参加者の感想から

- ▶ ひきこもり当事者のお手紙の内容に胸が詰まりました。胸の内を話せるようになるまで何年もかかったことを想像し「辛かっただろうな」と思います。その胸の内を中川さんに話せるようになるまで、心を通わせた中川さんはすごいなと感心・感動します。
- ▶ 今日の中川さんのお話は、自分のこととしてとても共感しました。家に帰ったらまず、息子や娘と話そう、夫と話そうと思いました。

「助けて」と言える力が必要なこと、自分も「助けて」をまず言おうと思います。

- ▶ 私自身、病気で不自由な状態になり、初めて「助けて」と言えるようになりました。「何でもひとりであまうできなくてはいけない」と思って生きてきたんです。でもやはり「ひとりでは生きていけない」のだから、「他人の力を借りればよい」と思えました。

人間はそこにいるだけで価値がある

…という言葉をよく耳にします。でも、中川さんが様々な出会いの中で「生きること」の難しさを実感し、「そこにいる」こと、「毎日を楽しく過ごす」ことは、「誰もが保障されなければいけないことだ」という信念に基づいた発言は、よく聞く言葉だけど、胸にしみこみました。

報告：井貝順子（いかい じゅんこ、岐阜地域懇談会世話人）

研究フォーラム「地域福祉を支える市民協同」フィールドワーク報告

研究フォーラム「地域福祉を支える市民協同」世話人会では、さる 7 月 24 日、世話人の稲田さんの活動拠点である名古屋市南区のフィールドワークを実施。「社会福祉法人名古屋キリスト教社会館」をはじめ、高齢者サロン「ピーチクパーチクひばり会」、コミュニティ食堂「マルチャンゴー」などの施設を訪問し、活動の様子を学びました。

①社会福祉法人名古屋キリスト教社会館（以下、キリスト教社会館）

今回の訪問は南区要町（かなめちょう）の「生活支援センターぴぼっと」の建物でした。キリスト教社会館の歴史から活動の内容まで、支援センター部門（活動センターねーぶる、ヘルパーステーションぴぼっと、ショートステイぴぼっと、ぴぼっと相談支援事業所）の各責任者の方から、それぞれの活動について説明していただきました。事業の大きな柱は三つでした。1. コミュニティケアセンター：子どもたちの豊かな育ちと、家族の子育てと介護を支える。2. 発達センター：育ちの不安や特別な課題を持つ子どもたちの発達を保証し、その家族の子育てを支援。3. 支援センター：重度の障がいを持っていても地域で豊かな暮らしができるように支援することを目指して設立された部門です。

キリスト教社会館の出発は伊勢湾台風の被害者救援活動からで、その支援金をもとに活動がうまれました。「菜の花保育園」から出発し、その事業の中から、障がいのある人の育ちの不安を解消し、その発達を保証し、その家族の子育ての応援のための「南部地域療育センターそよ風」やデイサービスの活動が生まれ、また、その障がいのある人の自立と社会参加をめざし「活動センターねーぶる」やヘルパーステーション、ショートステイやグループホームの活動も取り組まれています。また、高齢者を対象にしたデイサービスや小規模多機能施設、配食サービスも展開されています。

地域貢献の立場から、地域のニーズを分析し、それをもとに様々な事業所を創設。また現在もうまわつたつあります。事業をささえているのは、「ニーズをもとにした事業計画」と「寄付金」、さらに「働いている職員の姿勢」にあるようです。※キリスト教社会館の活動については「増刊「地域と協同」No. 6号」に小早川弘江さんの報告が掲載されています。ご参照ください。

②高齢者サロン「ピーチクパーチクひばり会」

訪れた「支援センターぴぼっと」の 1 階では、毎月第 3 木曜日に地域の人たちの参加でサロンが開かれています。毎回 20 名近くの参加があり、様々な素材をつかった創作に取り組まれています。この特徴は、サロンに参加された方が利用できる「ねーぶるカフェ」の活動です。障がいのあるメンバーが中心に運営され、コーヒー一杯 150 円、その他手作りのジュースやクッキーなどが利用できることです。障がいのある人の仕事づくりになっています。地域に開かれた「あたたかい」空間となっていることが実感できました。

③コミュニティ食堂マルチャンゴー

外観と、店内の様子では普通の喫茶店のようにもみえますが、障がいのある方、高齢の方、また子どもたちにも利用が開かれ、地元から食材の提供などもあり、コミュニティ食堂にふさわしい運営が行われています。壁には子どもたちのお手伝いとあいさつシールなども張られています。「あいち子ども食堂ネットワーク」にも加入しています。今年 1 月には TV 放送もあり、つながりが広がっているようです。

④つなぐコミュニティスペース 279ステーション

空き店舗のスペースを利用した「多目的レンタルスペース」が、「柴田商店街振興組合」と「チーム 279 (つなぐ)」によって運営されています。広さはコンビニエンス 1 店舗ほど。様々なイベント、会議、教室・講座、ワークショップ、また音楽活動等に利用されています。当日も、子どもたちがダンスの練習をしていました。

以上、当日は稲田さんの地域への日常活動への思いに触れることができました。活動の内容とともに研究フォーラムとして、深めていきたい課題を発見することができたよう感じました。

報告：熊崎辰広（くまざき たつひろ、研究フォーラム「地域福祉を支える市民協同」世話人）

情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定価 税別
<p>▶「誰かの笑顔につながるお買い物」 コープ商品の利用を通じたエシカル消費</p> <hr/> <p>NAVI</p> <p>2018. 9 No. 798</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 「誰かの笑顔につながるお買い物」 コープ商品の利用を通じたエシカル消費</p> <p>< コープのある風景 > パルシステム千葉 < 今日笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見 > CO・OPとやま 松谷 卓さん < 想いをかたちにコープ商品 > CO・OP骨取りさばの味噌煮・みぞれ煮 < 生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品 > CO・OPルイボスブレンド&ペパーミント・カモミール < ZOOM IN 生協の店舗づくり > コープこうべコープ園田 < 私の本ナビ > こうち生協 < うちの生協にはこんな人がいます > コープみやざき < 日本全国 宅配現場におじゃまします！ > コープぐんまコープデリ高崎センター < いつでもどこでも 地域とくらしを支えます > 東京都生協連 < ☆突撃☆あなたの町の組合員活動 > ララコープ < 明日のくらしささえあうCO・OP共済 > コープおきなわ < この人に聴きたい > 一般社団法人エシカル協会 代表理事 末吉里花さん < ほっと navi > 青森県民生協 コープおおいた</p>	<p>2018 年 9 月 A4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶野山のナッツ 畑のナッツ</p> <hr/> <p>うかたま</p> <p>季刊 [秋] 2018 vol. 52</p> <p>一般社団法人 農山漁村文化協会</p>	<p>特集 野山のナッツ 畑のナッツ</p> <p>木の実のお菓子 栗のタルト／栗のシュークリーム／干し柿とくるみのチョコ／くるみ大福 栗の渋皮煮／栗絞り</p> <p>ナッツのごはんとおかず ぎんなん入り中華風おこわ／落花生と鶏肉の炒め煮／がんもどき／ 鶏肉と里芋のごま味噌煮／落花生の五目豆／きくらげのえごよし／ごまころ 刺身のごま漬け／くるみだれとごまだれのうどん／えごまだれの五平もち 薬飯（ヤッパブ）／ベトナム風落花生とかぼちゃの煮込み</p> <p>木の実拾い入門 公園や学校の木の実 オニグルミ／マテバシイ 街路樹の木の実 イチョウ／トチノキ 神社やお寺の木の実 スダジイ／ムクロジ／カヤ 里山の木の実 クリ 森の木の実 ツノハシバミ／チョウセンゴヨウマツ クルミの殻、どうやって割る？ 野山のナッツと畑のナッツQ&A この実、なんの実？ ミックスナッツを解体！</p> <p>木の実と暮らす 岩手県二戸市・高鳥谷山のクルミの木 秋だから しょうが料理 しょうが料理と保存食 新しょうがの天ぷら／しょうがとくるみの佃煮／新しょうがの甘酢漬け しょうがシロップとしょうが糖</p> <p>コウケンテツさんの しょうがのおかず しょうがチキン／牛肉の新しょうが焼き／サバと新しょうがの南蛮漬け いわしのたっぷりしょうが蒸し 香菜だれ／手づくり厚揚げのしょうが味噌 鶏とごぼうとしょうがのピリ辛スープ／野菜のしょうが醤油漬け 野菜のしょうがピクルス</p> <p>秋にまく 無限菜っぱのスズメ 屋上はサラダバーです 日本無限菜っぱ 無限菜っぱ生活はじめました 長崎県・上五島のかんころもち 食◆おうちで本格食品加工 生芋こんにゃく 白崎裕子さんの「米粉の豆腐ニョッキ」</p>	<p>2018 年 10 月 132 頁 802 円</p>

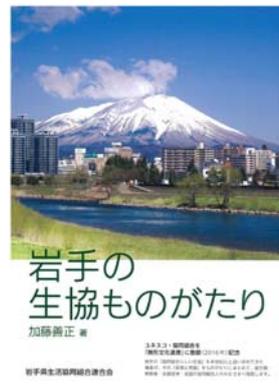
メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
	にほんのおにぎり 静岡県静岡市 まるしまの赤飯おにぎり 暮らし◆早川ユミのちくちくしごと 畑もんぺ この土地で暮らす・育てる・つくる 福島県浪江町→福島市 石井絹江さん 耕す 女子たち 埼玉県川口市 肥留間佳子さん 内山節 上野村の山暮らし 秋の景色 栽培◆庭にほしい木 サンショウ 一粒万倍!? バケツイネ入門 秋の作業 健康◆はじめての操体法 疲れにくい姿勢や動作を身につける 豆ジャーナル People 黒木華さん(女優) 食べるんだから知っときたい 種苗法が変わるとどうなるの? 「日本の家庭料理」編集室から 白崎裕子さんが読む	
月刊 J A 2018. 9 vol. 763 全国農業協同組合中央会	スゴイ農業、スゴイ J A J A 自己改革の現場から 青パパイヤを新機軸に営農振興 ー J A 南彩 (埼玉県) の青パパイヤの振興の取り組み J A 全中 広報部 J A ・農政トピック フランスの新農業・食品法 (案) の内容とその背景について考える (上) 須田文明 童門冬二 きずな春秋 ー協同のこころー 私のオピニオン 油井亀美也 地域を元気にする人たち 山岡享一郎 J A トップインタビュー 組合員とともに協同の成果を 鈴木茂正 (愛知県 J A 蒲郡市 代表理事組合長) 展望 J A の進むべき道 政策決定プロセスの変化への対応 金井 健 (J A 全中常務理事) 海外だより [D. C. 通信] 連載 88 農業者が素直に喜べない 1.3 兆円規模の貿易救済措置 吉澤龍一郎 第 31 回 広報活動優良 J A 紹介 地域密着型広報活動の部 優秀賞 / J A 松本ハイランド (長野県) ホームページの部 優秀賞 / J A いずみの (大阪府)	2018 年 9 月 A4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)
▶非正規化する 地方公務員 生活協同組合研究 2018. 9 vol. 512 公益財団法人 生協総合研究所	■巻頭言 お節介な民泊法 武田晴人 ▶特集 非正規化する地方公務員 非正規公務員という差別構造 上林陽治 「非正規」婦人相談員について 戒能民江 公立保育所における非正規雇用化の進行と職場集団 ー「保育の質」の視点からー 小尾晴美 公立小中学校の「1 年契約先生」 大広悠子 非正規公務員問題に対する労働組合の取り組みはどこまで進んだか 川村雅則 コラム 財政再生計画下の夕張市における行財政運営と職員の非正規化問題 厚谷 司 ■研究と調査 生協組合員の放射性物質に対する意識や行動の調査 (第二報) 近本聡子 ■時々再録 ネットにもらす身もふたもない本音 白水忠隆 ■本誌特集を読んで (2018・7) 清川卓史・白井和宏	2018 年 9 月 B5 判 64 頁

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 頁数
<p>▶ 文化連創立 70 周年を迎えて 2018 ジョイント・ Congress on Rural Medicine in 東京</p>	<p>農協組合長インタビュー (49) 職員が地元農家の農産物に自信を持つこと 文化連創立 70 周年を迎えて 文化連創立 70 周年 (5) 文化連と食品共同購入 (新予約) 運動 文化連第 70 回通常総会を開催 二木教授の医療時評 (163) 地域包括ケアと地域医療構想についての事実と論点 —韓国保健医療研究院での報告から 第 67 回日本農村医学会学術総会・第 20 回国際農村医学会学術総会 主要農作物種子法復活と在来種保全法制定へ 多様な福祉レジームと海外人材 (6) 東アジア諸国の家族主義的高齢者ケア 韓国農業の実相—日本との比較を通じて (25) 農協中央会の事業分離と米韓FTA 臨床倫理メディエーション (26) 在宅医療の終末期をめぐる臨床倫理 (1) 第 96 回国際協同組合デー記念中央集會 「会員の声を聴き共有する活動」「内部統制推進」の取り組み 野の風●協同組合との出会いと地域づくり デンマーク&世界の地域居住 (112) 地域に働きかけるリハビリ専門職 (愛知県春日井市、東海記念病院): 1 熱帯の自然誌 (30) 耳たぶを伸ばす風習 イギリスの病院 (2) ガイズ&聖トーマス病院 (1) ◆第 9 回厚生連医療メディエーター養成研修会開催のお知らせ ◆第 21 回厚生連医療経営を考える研究会開催のお知らせ ◆第 22 回厚生連病院と単協をつなぐ医療・福祉研究会開催のお知らせ ◆平成 30 年度厚生連院内感染予防対策研修会開催のお知らせ (基礎・栄養科) □書籍紹介 戦後社会保障の証言 □書籍紹介 フランスの共済組合 □書籍紹介 社会保障の公私ミックス再論 ▶ 線路は続く (126) 引退迫る黒部・関電トロリーバス/西出健史 ▶ 最近みた映画 ゲッパルスと私/菅原育子</p>	<p>2018 年 9 月 B5 判 96 頁 文化連情報 編集部 03-3370-2529 *注</p>
<p>文化連情報 2018. 9 No. 486 日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>関 武雄 東 公敏 村上一彦 二木 立 新谷周三 印鑰智哉 安里和晃 品川 優 中西淑美 鈴木佑理 元谷彰弘 相良孝雄 松岡洋子 安間繁樹 小磯 明</p>	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

研究センターの図書購入
『岩手の生協ものがたり (本冊と別冊セット)』

著者 岩手県生協連顧問・加藤善正氏
著者には 5 月に開催した第 18 回通常総会「記念シンポジウム」に参加いただき、「『日本の生協陣営は“正気の島”になりえているか!』—岩手の生協運動の『思想と実践』から、憲法が生きる社会づくりを考える—」というテーマで講演いただきました。その際、ご紹介くださった著書と別冊のセットについて研究センターで共同購入を呼びかけました。
25 セットの共同購入が出来、研究センターでも図書として揃えました。
岩手の「協同組合らしい生協」を半世紀以上追い求めてきた著者が、その「思想と実践」をものがたりにとまとめた、組合員・常勤者・友誼団体・全国の協同組合人の皆様へ発信する「岩手の生協ものがたり」。貸し出しをご希望の方は研究センター事務局までお問い合わせください。
(発行 岩手県生活協同組合連合会)



第4回貧困と子どもの健康研究会

期 日 2018年11月25日（日） 9:00～12:00
 会 場 名古屋ウイंकあいち小ホール（名古屋駅前）
 参加費 医師3,000円、一般500円、学生・支払困難な方無料

メイン企画：講演と討論「スウェーデンから学ぶ」

講演1：「A good start in life for every child-the efforts in Sweden」

（すべての子どもにとってのよき人生のスタートスウェーデンの取り組み）

アネリ・イヴァルソン（スウェーデン、ウメオ大学教授）

講演2：「日本の子どもの貧困の現状（仮題）」

両国の比較をしながら日本の課題を考えます

山野良一（沖縄大学教授）

共催：貧困と子どもの健康研究会実行委員会

日本外来小児科学会子どもの貧困問題検討会

問合せ先：和田浩 〒395-8522 長野県飯田市鼎中平1936 健和会病院小児科

TEL0265-23-3115 Email:zan07102@nifty.com

※上記講演の後、一般演題も予定されています

2018年「研究センター会員お誘い強化月間」9月1日～11月30日

会員「ひとり」がお近くの「もうひとり」に、

研究センターのお話（お誘い）をお願いします

—お誘い集中月間（2018年9月～11月）—

- 9月1日より、第18回通常総会で確認した「お誘い集中月間」を迎えました。
- 研究センターの多様な取り組みに参加する会員をひろげましょう。
- 新しい会員と一緒に、第4期中期計画の実践をすすめましょう。

地域と協同の研究センター10月の予定

10/3水	「市民の講座」運営委員会	10/17水	尾張地域懇談会・拡大世話人会
10/5金	第1回「協働を学び合う講座」※	10/22月	研究フォーラム食と農世話人会「大原先生と懇談」
10/6土	第4回共同購入マイスターコース	10/23火	常任理事会、研究フォーラム地域福祉世話人会
10/10水	研究フォーラム環境世話人会	10/24水	くらしを語りあう会
10/11木	三河地域懇談会世話人会	10/26金	第2回組合員理事ゼミナール
10/12金	第5回「協同の未来塾」	10/27土	第74回「生協の（未来の）あり方研究会」※印は挿入チラシをご覧ください
10/15月	岐阜地域懇談会		

地域と協同の研究センターNEWS169号

発行日2018年9月25日定価200円（税・送料込み）

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>